

2021年7月25日 大井バプテスト教会 礼拝説教

説教題「伝わる言葉」 マルコによる福音書4章10-12節 牧師 広木 愛

「10:イエスがひとりになられたとき、十二人と、イエスの周りにいた人たちとが、たとえについて尋ねた。11:そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密が打ち明けられているが、外の人々には、すべてがたとえで示される。12:それは、／『彼らが見るには見るが、認めず、／聞くには聞くが、理解できず、／こうして、立ち帰って赦されることがない』／ようになるためである。」

マルコ4:10-12

先日、日曜日、公園科が終わる頃に、手話を話す方が教会を訪れてくださいました。筆記でどうにかいろんな方たちが対応してくださっておられ、2時間ほど、教会に滞在され、その後数回教会を尋ねてくださいました。

Kさんは、池上通りを歩いておられるときに、十字架を見つけて、大井教会を尋ねてくださいました。

初めて筆談でお話してみて、わかったことは、相手の言いたいことが全く理解できないということです。Kさんにとっても残念な思いをさせていただきました。彼女との筆談のメモを何度も読みなおして見ると、彼女の言葉の裏には、こういう意味があったのかもしれないなあと思いながらも、その答え合わせができないまま2か月が過ぎてしまいました。

今、大井教会の聖書日課は、エゼキエル書を読んでいます。預言書を読んでいると、いろんな方法で神さまが私たちに語り掛けてくれていたことを知ることができます。エゼキエルのような預言者がいない私たちに残されているのは活字になったものから、神さまを知る事ができています。活字からもたくさん読み取れると思っていましたが、先日のKさんとの出会いを通して、書いている本人が目の前にいても、活字からわかることは、本当に少ないことなんだなあと思われています。ひらがな、漢字、カタカタで筆談しているにも関わらず、彼女が何を伝えようとしていたのか、未だにわからないまま2か月が過ぎてしまっています。会話の途中に「あなたは手話ができますか?」「礼拝に手話通訳がないですか?」と聞かれ、自己紹介もきちんとできない自分の手話のレベルの低さを痛感させられました。相手が手話と筆談で伝えようとしてくれるのに、私にできるのは、ほんの少しの手話と、なんとなくうろ覚えの手話で何を言っているのかを想像して、筆談で答えるだけ。Kさんは、わたしのつたない手話を理解してくれて、間違えている部分を訂正して、

教えてくれているのに、わたしは彼女の何を何もわかっていなかったんだなあと思わされていました。

そのようなことを考えている中で、超教派の神学校のオンライン公開講座で、キリスト教新聞の方がコロナの中の教会についてというテーマでお話される勉強会に参加させていただいていましたら、私が考えていた言葉と少し違うけれども、「教会が気づかず使っている教会語」についてお話されていました。バプテスト教会だけでなく、ほかの教派の教会でも、オンライン礼拝が一気に始まり、オンライン礼拝をどこまで地域に開いているのかをいくつかの教会の看板や教会案内を例にとり、教会がどのように地域に教会を開こうとしているかが分かるという興味深い内容が語られていました。たとえば「主日礼拝」「祈祷会」「教会学校」わたしたちにとって当たり前の言葉でも、教会の看板を見る人たちにとっては、どんな集会をしているかが不透明になっているということでした。

聖書にもイエスさまがたとえ話を使って神さまの物語をお話になっている物語が描かれています。たとえ話がなくても、聖書がいたいことがすんなり分かる人には、たとえ話はいらなくても、すんなりわからない人も大多数いるのをイエスさまもご存じで、その人たちが分かりやすいように、同じ言語を話す人たちでも、伝わらないことがあったのだと聖書の時代からもあったんだなあと思わされています。教会が建てられている大井の町に、大井教会の中だけで伝わる言葉ではなくて、大井町でも伝わる言葉を新しい礼拝堂では意識して使えればいいのかなあと思わされました。

伝わる言葉、伝わらない言葉、それを自分一人で見つけることは難しいけれど、それを一緒に見つけていくこと、教会学校のクラスで、各会の交わりの中で、見つけていけばいいなあと思わされます。

わたしにとってKさんの大井教会への訪問は、手話ができなければ、筆談できると通じるはず！という勝手な思い込みがあることを示されました。私の持っているあたり前と、全く異なる人との出会いは、伝わる言葉を見つけるきっかけになるのだらうと思われています。神さまからの語りかけは、聖書を通して語られているのはもちろん、このような出会いを通して神さまは語り掛けてくださっているのだらうと思われました。

新しい礼拝堂にもうすぐ荷物が運び込まれようとしています。その準備をしていると新しい礼拝堂での活動も目の前だと実感します。新しい礼拝堂で、伝わる言葉で神さまの福音を分かち合っていく恵みに招かれていることを感謝しつつ、この週も歩みたいと思います。